

聖学院大学総合研究所 絵本研究会主催
2020 年度 絵本ワークショップ
「絵本とからだの関係を考える」
講師・ファシリテーター：春木豊



講師・ファシリテーター：春木 豊先生

2020年11月28日（土）、絵本ワークショップ「絵本とからだの関係を考える」をオンラインで開催した。講師・ファシリテーターに、臨床発達心理士の春木豊先生をお迎えして、昨年度の「絵本をからだで感じてみる」に続くテーマで実施した。

今年度のコロナ禍のなか、絵本の読み聞かせやおはなし会などの交流活動の多くが中止された。子どもと一緒に絵本を読む交流は親密なふれあいになり、3つの密、3Csになりやすい。けれども、隔たりを保つという制約にあっても、絵本を読む楽しさに緊張が解れる余地があるのではないかな。身体的に間隔をおくphysical distancingと、人と人が結びつこうとするsocialを、読むからだはどう感じているか。マスクで隠れている表情はどう伝わるのか。傍らの人に読む声と画面越しに読む声の違いにふれあいinteractionはどのようになるか。参加者の皆さんと一緒に話題を共有した。

今回の絵本は、ナムーラミチヨ作『だっだあー（愛蔵版）』（主婦の友社、2010年）である。この「赤ちゃんのことばあそび」は、幼い子に大好評だが、読書する体勢の大人には難解である。カラー粘土の〈顔〉の柔らかさにことばの可塑性も合わさって、その相貌に呼びあうよろこびが感じられる。

実践ワーク1では、画面越しに（1）聴覚だけで絵本を体験し、（2）視覚と聴覚で赤ちゃんになった

つもりで絵本を体験した。目を閉じて読む声を聞くからだは、背を丸めてボールを抱えるような姿勢になった。目を開いて読む声を聞くからだは、画面に寄ったり離れたりした。参加者から「聞くだけではよくわからないから、確認したいと思って見た」と感想があった。〈顔〉に近寄って表情を読もうと模索する体勢から、声の調子に誘われて参加者の口元が動いてきた。文字を読んでいるのではない聞こえてくる声と見えてくるものとの結び目に、読むからだの口が開いていったと言える。

実践ワーク2では、読みあいの三項関係を観察した。かたい表情から楽しそうな様子への変化や、あいが伸び縮みして変動する様子が観察された。「静観していられなかった」との感想があった。読み手と聞き手が一緒に絵本を見て、聞き手の声を読む声についていく。読み聞かせられる側に留まらない聞き手の参加である。「だあ」「ダァ」…しっぽとり遊びのような声の戯れあいにもなって、両者の視線が絵本から離れた。ふたりの目が合い、表情が緩んだ。読み手と聞き手の役割が絡み合って、聞き手の方が読みをリードしていった。

読みはことばの感触である語感に触発される。〈顔〉に接近して息づかいと口の感動が読みの表情に生る。感情表現として作ったのではない。表情は、観察されていることの意識に固まる。ところが、マスクで顔が隠れていると、表現に力むことのない



左：寺崎恵子先生（コーディネーター） 右：春木豊先生

い自由な読みが開いてきた。読み手に先導されずに自分の息づかいを口元に感じて、語感にふれている。絵本にかぶさって身を屈めて読んでいる子どもの伸びやかな声は、「よみ」の原義通りの響きになった。

実践ワークの後、絵本とからだの関係を考える手がかりとなる知見の解説をうかがった。身体は「誕生から死まで一生を通して付き合い続けるもの」であり、からだ（心と身体）は「複雑多岐にわたる社会の中で成長し続けるもの」である。感覚統合論によると、実感しやすい感覚（視覚、聴覚などの五感）と実感しにくい感覚（前庭覚、固有覚、触覚）があり、「わたし」の身体的自己イメージは後者の感覚にある。絵本を読むからだの感覚は、視覚と聴覚のみならず、その基層の実感しにくい感覚の多感覚間統合に考えられる。視覚には、身体感覚と結びついた視覚と見るだけの視覚がある。前者の視覚は錯視に騙されない。そういえば、子どもは絵本に触れて楽しんでいる。参加者から「絵本の絵をどのように活かせるか」と質問が寄せられた。子どもと一緒にからだじゅうで絵本をおもしろがってみる遊びを工夫したい。その他、情動と大脳辺縁系の機能、愛着のシステム、感情の社会化、共同注意など、脳科学や発達心理学の知見が紹介された。

そして、春木先生の話を受けて動作法をもとにした体験を行った。肩に触れて温と圧を感じる。によりよると振れてからだが和らぐ。吸気では肩が力む。からだの奥の息づかいを歯でかみ殺して喋ってみる。「理由が知りたくて関わろうとするとズレが起きる」。探求心を緩めて、子どもと一緒に過ごし、「お互いのその時の雰囲気を感じてみる」。

春木先生は、「絵本を読むことはコミュニケーションになる」と締めくくった。あなたとわたしと一緒に絵本を読んで、隣りあう。わたしのからだに自らよむ声が生まれてくるとき、からだの奥に動いている息づかいは、身体的な隔たりをこえて肌にあたたく感じられる。それは、言葉による伝達よりも、共生態になる。

【Data】

日 時：2020年11月28日（土）13：30～15：00

場 所：オンライン開催

講師・ファシリテーター：春木 豊

コーディネーター：寺崎恵子

主 題：「絵本とからだの関係を考える」

参加者：9名（他、講師、スタッフ5名）

（報告者：寺崎恵子〔てらさき・けいこ〕 聖学院大学人文学部児童学科准教授、子どものこころと絵本研究 研究代表）

本

書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

新刊

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア ——そのキリスト教と民主主義

森田美千代 著

2020年12月24日発行
2,970円（10%税込）

著書・演説・書簡を綿密に読み込み、丁寧に紐解いた一冊。



魔女は真昼に夢を織る

松本祐子 著
イラスト 佐竹美保

2016年12月10日発行
2,530円（10%税込）

創作ファンタジー 3作と物語の
〈魔法〉をめぐる論考とコラム。
☆Kindle版（2019.2）もあります。



作田明の生涯

——犯罪精神医学者の歩んだ誇り高き里程

丸山久美子 著

2020年8月25日発行
2,420円（10%税込）

他者への思いやりの深さ、キリスト者としての使命感に焦点をあてた伝記。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigyo.co.jp